

<文化を取り巻く社会情勢の変化>

- ・過疎化、高齢化の進行等により地域で文化活動を担う人材が減少
- ・世帯構成の変化等により豊かな生活文化や伝統文化などの継承の危機
- ・情報通信技術の急速な進展や最先端技術が文化の創造や活動に影響
- ・日本文化への関心の高まり等による外国人観光客の急激な増加 など

<これまでの府の取組>

- ・府民の自発的な文化芸術活動や質の高い文化芸術の振興
- ・文化を未来に伝える次世代の育成
- ・文化力による活気あふれる京都の創出や「みやこ文化圏」の活動の促進
- ・国際的な文化活動の拡大、文化を創造する空間の整備 など

課題:文化を担う人づくり
→幅広い世代、様々な分野を対象に人材の育成 など

課題:文化活動を支える基盤づくり
→文化活動を支援するための専門人材、財源等の確保 など

課題:文化の保存・継承、新たな文化創造
→地域の宝である未指定も含めた文化財の保存と活用の推進
→道具や原材料、技術の継承
→和食など生活文化やフリップカルチャー等の文化政策の範囲の拡大
→様々な文化と先端技術の融合等による新たな文化の創造 など

課題:京都文化の発信
→東京オリンピック・パラリンピック等のゴールデンスポーツイヤーズに向けた文化発信

課題:地域づくり、文化資源の活用
→地域の文化資源の観光、まちづくり、産業等との連携
→文化資源を幅広く活用し、生み出された価値を文化の保存、継承、創造に繋げる循環のしくみづくり
→芸術系大学の学生等様々な主体が参画した地域づくり など

<目指すべき姿>

目標1:暮らしの中に多様な文化が息づく社会
これまで受け継いできた文化に誇りを持ち、次世代に継承されている

目標2:感性が豊かで創造的な社会
誰もが個性を発揮し、多様な文化が交流し、文化と先端技術の融合により、文化の創造が活発に行われている

目標3:活力があり人を惹きつける社会
文化が様々な分野で活かされ、地域や産業が元気になっている(文化GDPの拡大)

新たな文化創造と、文化の幅広い活用により地域や産業を活性化

※<主な施策>は各戦略における代表的な施策であり、他の戦略との重複がある。

<基本戦略>(主な施策例)

1. 文化を担う人づくり

- 感性と創造性豊かな次世代の育成
 - ・日本文化のかなめの共有(古今集の朗唱大会など)
 - ・優れた芸術家を学校に派遣し、授業等で文化体験(文化の知恵袋委員会による「学校・アート・出会いプロジェクト」の拡大)
 - ・小中学校での伝統文化、古典等の体験活動への支援
- 家庭や地域での文化活動の促進
 - ・保育園・幼稚園、学校、家庭、地域等と連携し、幼児及び保護者を対象にした文化体験
 - ・美術館・博物館等を活用した体験学習を実施
- 若手芸術家やクリエイターの育成
 - ・海外の美術館、大学等と連携した国際的な芸術家の発掘・育成
 - ・ゲームやアニメの若手クリエイターの表彰制度の創設
 - ・発表機会の充実・確保
 - ・若手芸術家の選抜展、アーティストフェアの開催(Kyoto Art for Tomorrow)
 - ・若手芸術家の創作環境の整備(芸術村づくり)
 - ・古典芸能活動、若手演者公演等への支援
- 伝統産業や和食など幅広い分野の人材育成
 - ・伝統文化、伝統産業人材の育成
 - ・和食文化人材の育成(府立大学和食文化学科の設立)
 - ・国際的な映画人材の育成

2. 文化の保存、継承及び創造

- 文化財の保存等
 - ・暫定登録文化財制度の運用
 - ・「文化財を守り伝える京都府基金」による文化財保全
 - ・道具や材料、技術の伝承
 - ・日本遺産、史跡・埋蔵文化財ツアーの実施
- 伝統文化等の振興
 - ・日本文化のかなめの共有(古今集の朗唱大会など)<再>
 - ・「古典の日」関連事業の全国展開
 - ・京都文化を発信する様々な展覧会等の開催
 - ・府立高校での茶道・華道や古典を通じた伝統文化学習
 - ・府立高校の文化歴史推進校の指定、文化部の育成強化
 - ・府高等学校総合文化祭の開催
 - ・全国高校生伝統文化フェスティバルの拡充
- 文化芸術と先端技術の連携・融合
 - ・先端技術とアートの交流の仕組みづくり
 - ・文化芸術や文化資源等による起業コンペティションの開催
- 生活文化など幅広い文化の振興
 - ・京都・和食の祭典の開催
 - ・新たな創造シーズの蓄積(生活文化や障害者芸術をはじめとする文化資料のアーカイブ化)
 - ・アートマネージャー等の配置と地域芸術祭の開催
- 障害のある人の文化芸術活動の推進
 - ・障害のある人の芸術祭等の開催

3. 文化力による地域づくり

- 文化資源を活用した観光・地域振興
 - ・「1%フォー・アーツ」による文化のまちづくり
 - ・「海・森・お茶の京都」DMOの推進
 - ・観光消費の拡大を図る海外プロモーション、教育旅行等の実施
 - ・「丹後・食の王国」を中心に誘客を図る「食」と「文化」の発信
 - ・山陰海岸ジオパークで、地域文化、自然、食などが楽しめるトレイルコースの整備
 - ・京都丹波の需要拡大を図る地元産材のブランド化
 - ・宇治茶の消費拡大を図る宇治茶文化の魅力発信
- 地域文化を支える多様な人材の確保
 - ・地域文化クラスターを形成し、地域文化の一体的な活用・発信
 - ・アートマネージャー等の配置と地域芸術祭の開催<再掲>
 - ・地域団体、文化団体等による文化振興活動への支援
 - ・大学と市町村等が連携した1(ひと)まち1(ひと)キャンパス活動の支援
 - ・京都で学ぶ学生による「京都学生祭典」の支援

6. 文化活動を支える基盤づくり

- 文化活動を支援するための専門人材や財源等の確保
 - ・文化政策のシンクタンク機能の整備
 - ・持続的な事業推進のための専門人材を確保し、ネットワークを構築
 - ・文化振興につながる民間事業への個人投資を促す仕組みの創設
 - ・海外も含めた寄附獲得の仕組みづくり

5. 京都文化の発信

- 海外との文化交流
 - ・美術工芸の世界的な見本市を京都で開催<再>
 - ・日本画や和食、伝統芸能等の戦略的海外プロモーション<再>
 - ・海外の美術館、大学等と連携した国際的な芸術家の発掘・育成<再>
 - ・友好提携州等との文化交流の促進
 - ・留学生への日本文化体験
 - ・京都文化カプロジェクト2016-2020による多彩な文化の発信

4. 文化を活用した経済の活性化

- 文化資源を活用した産業振興
 - ・美術工芸の世界的な見本市を京都で開催
 - ・日本画や和食、伝統芸能等の戦略的海外プロモーションの実施
 - ・文化芸術や文化資源等を活用した起業コンペティションの開催<再>
 - ・「京都クロスメディア推進戦略拠点(KCROP)」によるコンテンツ事業者の支援
 - ・「京都大学東映・太秦映像オープンイノベーションセンター」を設立し、企業・クリエイターや研究者等の出会いの場等を創出

- 様々な機関との連携
 - ・「京都文化芸術会議」による提言・発信等の活動
 - ・和食文化の保護等に携わる団体のネットワーク化等

- 文化施設のバリアフリー化、多言語化等
 - ・北山文化環境ゾーンの整備
 - ・外国人観光客も楽しめる京都文化博物館のリニューアル

- ・文化会館等を地域文化の交流拠点としての環境整備
- ・京都スタジアムの文化活動での活用

<推進体制等>

●推進体制の整備

- ・知事トップの新文化行政推進本部の設置
- ・有識者会議の設置
- ・文化庁、府内市町村、関西広域連合などとの連携

●数値目標(KPI)の設定と定期的見直し